

北海道えりも町におけるタヌキの胃内容物の一例

堂元菜々実¹⁾

キーワード

タヌキ, えりも町, 胃内容物, 食性, サルナシ, ロードキル

はじめに

タヌキ *Nyctereutes procyonoides* は食肉目に分類される雑食性の中型哺乳類で, 日本では北海道から九州にかけて分布している (Saeki, 2015). タヌキは小型哺乳類, 爬虫類, 両生類, 魚類, 甲殻類, 昆虫類, ミミズ, 果実, キノコなど幅広い食性を持つことが知られており (村上, 2018), 生息地域の環境によって食性を変化させることが報告されている (高槻ほか, 2018).

北海道えりも町は日高地方の最南端に位置し, 夏は冷涼で冬は温暖な気候が特徴である. 町の中央には日高山脈が位置し, 希少な動植物が生息する多様な自然環境を有する.

タヌキの食性は, 糞分析やロードキル (野生動物が道路上で自動車に轢かれ死亡すること) および有害鳥獣駆除個体の胃内容物分析などによって調査されている. しかし, 北海道のタヌキの食性に関する報告は限られており (清水・浅利, 2025), 北海道えりも町における報告はない. 本報告では, 北海道のタヌキの食性に関する一例として, 北海道えりも町において2月に収容されたロードキルのタヌキ1個体の胃内容物について報告する.

材料と方法

2025年2月23日の朝, 北海道えりも町庶野の国道336 (42°00'55.0"N 143°14'19.0"E 付近) で死亡したタヌキが発見された. 発見者は町内のハンターで, 発見者が拾った死体をえりも町役場職員が受け取り, 同日の午前10時ごろにえりも町郷土資料館に搬入された (図1). 到着後, 死体を常法に従って計測, 解剖し, 胃内容物を採取した.

胃内容物は水洗しながら篩で濾し, 篩上に残ったものを水とともに少量ずつトレイに分けて, 目視で確認しながらピンセットで選別した. 胃内容物は清水・浅利 (2025) を参考に分類した. 採集した胃内容物のうち, 液果, 軟体動物, 昆虫は70%エタノールで保存し, 鳥類の羽根, 哺乳類の毛は乾燥させて保存した. その他の残渣は廃棄した.

本個体の胃内容物および頭蓋骨, 陰茎骨, 毛皮, 体表に付着していたマダニや昆虫は, えりも町郷土資料館で保管し, 一部は展示している.



図1. 収容されたタヌキ

結果と考察

1. 個体情報

本個体の計測値を表1に示した. 性別は, 生殖器および生殖腺の確認により, オスであった. 毛皮は冬毛で, 体表にマダニや昆虫が付着していたが, 疥癬などの皮膚疾患は見られなかった. また, 皮下脂肪を豊富に蓄え, 胃内容物は重量119 g と死亡する直前まで採食していることから, 健康な個体だと考えられる. 本個体の頭部 (特に下顎) に出血および骨折がみられた (図2). 本個体は自動車と衝突した際に頭部を負傷し, 死亡したと考えられる.

1) えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207 番地

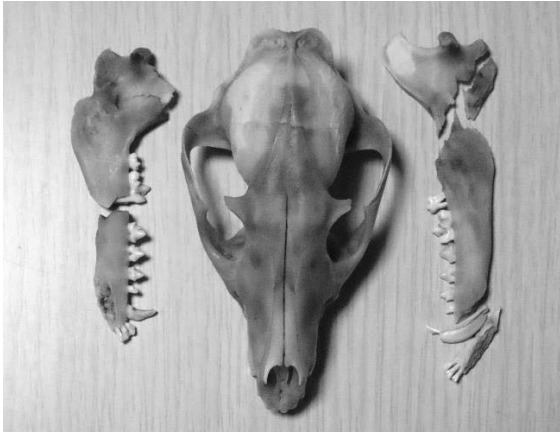


図 2. タヌキ頭部骨格 (晒骨済み)

2. 胃内容物

本個体の胃内容物については、7 項目 9 種類の採食物を確認した (表 2)。胃内容物は液果 (サルナシ) が大半を占めており (図 3A)、そのほかに軟部組織や殻 (無脊椎動物など) (図 3B)、イネ科草本、枯葉、針葉樹の葉 (図 3C)、昆虫の翅や足 (図 3D)、鳥類の羽根 (図 3E)、哺乳類の毛と前掌 (図 3F, G) がみつかった。鳥類の羽根は、トラツグミの腹側や背側の羽根が見られた。哺乳類の毛は、長さ 6~16 mm、色は根元が黒色で毛先が白色または茶色であり、ネズミ類のものと考えられる。また、見つかった前掌は同一個体のものとみられる。

これまでの研究で、タヌキの年間の採食物に占める果実の利用割合が高いことが報告されており、本州では年間を通じて液果の利用がみられている (Sasaki and Kawabata, 1994)。本個体においても液果 (サルナシ) が最も多く利用されていたが、サルナシは 7 月に開花し、10 月に果実が黄緑色に熟すことから (えりも町教育委員会, 1999)、北海道の 2 月中旬にサルナシが採食されていたことは意外な結果であった。北海道十勝地域のタヌキを対象にした食性調査では、液果の採食は夏と秋 (6 月~11 月) に限られ、サルナシ、ヤマブドウ、イチイなどのそれぞれの結実期に液果を利用していることが示唆されている (清水・浅利, 2025)。本事例においては、2024 年に果実 (サルナシ、ヤマブドウ、ドングリなど) が豊作であったため、翌年

2 月中旬までサルナシの実が枝や地上に多数残存していたと考えられる。また、2024 年から 2025 年にかけて暖冬であったことから、結実期が長期化した可能性も考えられる。サルナシ以外の植物として、イネ科草本、枯葉、針葉樹の葉がみられたが、いずれも微量であったことから、地上の餌資源を採食する際に混入した可能性が高く、サルナシ以外の餌資源の採食時に混入したものと考えられる。

また、サルナシに次いで、無脊椎動物を含む軟部組織が多く見られ、微量ながら昆虫も見られた。これは、暖冬の影響で残雪が少なく、地上の餌生物の探索が可能だったことが予想される。

鳥類と哺乳類については、それぞれ羽根と毛が微量に見つかり、哺乳類については前掌が見つかった。鳥類については他の餌資源を採食した際に混入した可能性も考えられるが、どちらも地上の探索により採食されたと考えられる。

えりも町のタヌキについては、生息が確認されているものの、その基礎的な生態や分布に関する調査・研究はなされていなかった。食性調査により得られるデータの蓄積は、対象動物の基礎的な生態を明らかにする上で重要である。

さらに、えりも町では、近年タヌキが牛舎や家庭菜園等へ侵入し、飼料や干し魚、収穫物への食害が増加傾向にある。令和 6 年 (2024 年) 4 月改正の「えりも町鳥獣被害防止計画 (計画期間：令和 4 年度~令和 6 年度)」では、対象鳥獣にタヌキが追加され (えりも町, 2024)、今後ますます、在来種タヌキが特定外来生物アライグマと並ぶ「害獣」であるという認識が高まると予想される。有害鳥獣駆除個体を用いた食性調査を進め、タヌキによる食害等の被害をより具体的に把握することは、鳥獣管理対策の点からも重要である。

えりも町郷土資料館では、ロードキルや有害鳥獣駆除による死亡個体を収容し、些少なから標本化や教育普及活動への利用を進めている。今後も継続して収集、標本化、調査・研究を実

施したい。

謝辞

本事例において、個体の収集、移送等に関わった関係者の皆様、特に、えりも町役場の菱沼嘉人氏に感謝申し上げます。また、タヌキの解剖および胃内容物調査にご協力、ご助言をいただいた、えりも町郷土資料館の中岡利泰氏、高橋梨沙学芸員に感謝の意を表する。

文献

えりも町教育委員会, 1999. サルナシ. p. 135.
 新版えりもの植物 (新版「えりもの植物」出版実行委員会編). えりも町教育委員会, えりも.
 えりも町, 2024. えりも町鳥獣被害防止計画 (令和6年4月改訂). えりも町役場ホームページ, (2025年2月21日取得, <https://www.town.erimo.lg.jp/section/sangyo/u/u9c3nn00000005b7-att/u9c3nn00000005e9.pdf>).

村上隆広, 2018. タヌキ (亜種エゾタヌキ). pp. 54–55. 北海道の哺乳類 (村上隆広・近藤憲久編). 知床町立知床博物館, 斜里.

Saeki, M., 2015. *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834). In (Ohdachi, S. D., Ishibashi, Y., Iwasa, M. A., Fukui, D., and Saitoh, T., eds.) *The Wild Mammals of Japan*, Second edition, pp. 224–225. Shoukadoh Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto.

Sasaki, H. and Kawabata, M., 1994. Food habits of the raccoon dog *Nyctereutes procyonoides viverrinus* in a mountainous area of Japan. *Journal of the Mammalogical Society of Japan*, 19: 1–8.

清水俊輔・浅利裕伸, 2025. 十勝地域のタヌキの食性. *哺乳類科学*, 65(1): 29–36.

高槻成紀・岩田 翠・平泉秀樹・平吹喜彦, 2018. 仙台の海岸に生息するタヌキの食性—東北地方太平洋沖地震・津波後に復帰し復興事業で生息地が改変された事例—. *保全生態学研究*, 23: 155–165.

表 1. 個体計測値

計測項目		値
性別		オス
体重		5.4 kg
頭胴長		55.2 cm
尾長		13.5 cm
左前掌長	爪あり	5.3 cm
	爪なし	4.5 cm
左後掌長	爪あり	4.7 cm
	爪なし	3.8 cm
体高		27.2 cm
胃		75 g
胃内容物		119 g
生殖腺 (精巣+精巣上体)	右	12 g
	左	12 g

表 2. 胃内容物

採食項目	種類
イネ科草本	種不明
液果	サルナシ
その他植物質	枯葉
	針葉樹の葉
昆虫	半翅目
無脊椎動物	頭足類
	ミミズ類
鳥類	トラツグミ
哺乳類	ネズミ類

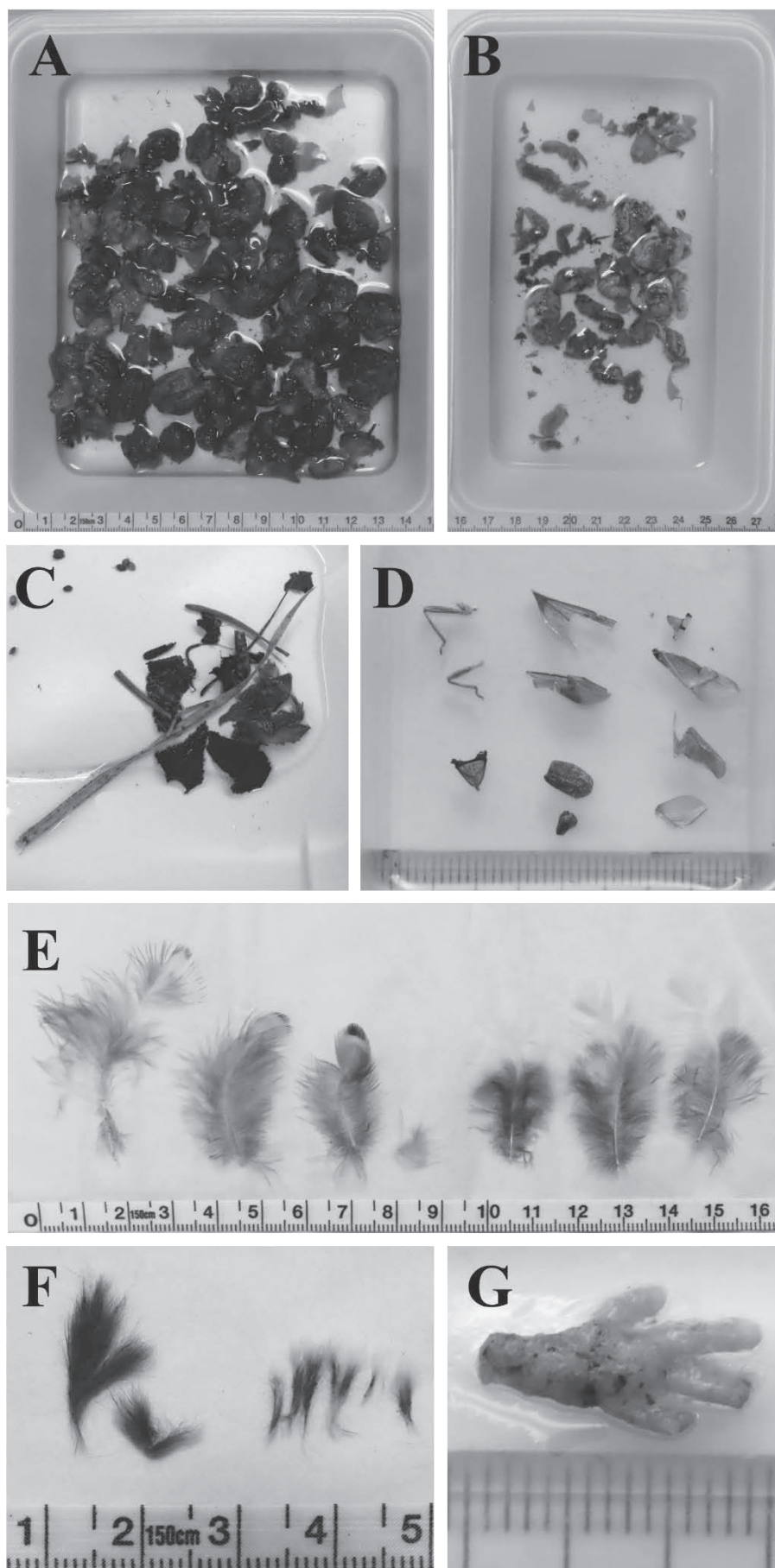


図3. 胃内容物. A: 液果 (サルナシ). B: 軟部組織と殻 (軟体動物など). C: イネ科草本およびその他植物. D: 昆虫. E: 鳥類. F: 哺乳類 (毛). G: 哺乳類 (前掌).